

Vol.59 / 夏季号

平成29(2017)年7月1日発行
(年3回7・11・2月発行)

ひま

日農工会報

わり

 第56回従業員功労表彰受賞者

 カンボジア出張報告

 ISO/TC23/SC3会議出張報告

 中小企業等経営強化法証明書

 新社長の紹介(株)IHIスター



ひま










日農工会報

わり

平成29(2017)年7月1日発行

VOL.59 / 夏季号

CONTENTS

 平成29年度 第56回従業員功勞表彰受賞者一覧	1
 カンボジア出張報告 日農工専務理事 田村敏彦	9
 フォトギャラリー	12
 健康相談 健診で見つかりにくい病気	15
 ISO/TC23/SC3会議出張報告	16
 中国（寧波・蘇州）出張報告	18
 日農工だより ～第54回定時総会～叙勲受章	20
 中小企業等経営強化法に関する証明書発行について	21
 新社長の紹介 ㈱IHIスター 社長 宮原 薫	24

表紙 撮影地：八芳園
従業員功勞表彰受賞者の集合写真

平成29年度

第56回従業員功労表彰受賞者

“合理化の促進、技術の改良開発、販売の促進等
企業発展に著しく寄与した者に贈られる”

表彰式：平成 29 年 5 月 29 日
於：八 芳 園（東京都港区白金台）

注：勤続年数は平成 29 年 5 月現在

[製造部門]



西岡 久

(株)啓文社製作所
製造部
(勤続年数 40.1年)

【功績の概要】

昭和52年入社以来39年間、コツコツと努力を積み重ね、技術部をはじめ、製造部で当社製品の品質を支えてきた。地道な積み重ねを行っていくタイプの性格で、後進の育成にも功績が大きい。協力会社との繋がりも大切にし、協力会社の品質向上にも大きく貢献している。



井口悦男

(株)デリカ
製造部
第1PC管理グループ
(勤続年数 32.1年)

【功績の概要】

昭和60年入社後、製造部のインプル購買を10年勤め、その後、材料班の班長時に、改善活動で順序納入による生産性向上に多大な貢献をした。そ

の指導能力から製造現場の係長を歴任した。現在は、インプルの製造部管理グループで後進の育成にあたっている。



中村明克

ハスクバーナ・ゼノア(株)
生産本部生産部
部品グループ長
(勤続年数 34.1年)

【功績の概要】

昭和58年入社後、厚木工場油機事業部技術部に配属になり、購買部を経て、営業職を経験する。その後、ビッカーズジャパンに出向を経た後、平成11年にカスタマサポートグループ(補給部品担当)に異動。以降、約18年間補給部品業務に従事し現在に至る。平成26年にグループ長に昇進、昨年は工場再編にあたり部品倉庫の大幅なレイアウト変更を短期間で完了し、多大な貢献をした。

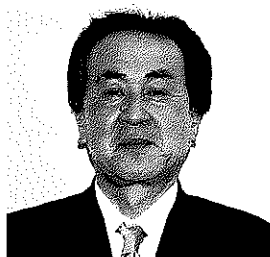


小安忍

(株)丸山製作所
品質ものづくり統括部
生産技術課
(勤続年数 42.9年)

【功績の概要】

入社以来長年にわたり、開発部門あるいは生産技術部門でBSA、SSなどの大型製品の開発に関与し、溶接部品の試作に携わってきた。特に、溶接にかかわる知識と技能は社内でも抜きん出たものがあり、設計部門や加工部門に的確なアドバイスを行って製品の品質や生産性向上に大きな成果を残し、社業発展への功績は多大なものがある。

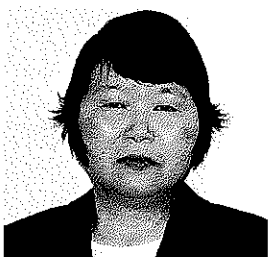


安達正彦

(株)山本製作所
製造部加工グループ
(勤続年数 40.1年)

【功績の概要】

昭和52年入社後、製造部門で「ものづくり」の経験を積み、昭和56年から現在に至るまで、長年に渡り試作業務を行ってきた。自作の加工ノウハウだけでなく、協力会社や外注先の加工技術も把握し、試作部品を短納期で手配する仕事ぶりは、まさにプロフェッショナル。現在では、そのノウハウを若手の後進育成に努めており、社員の模範となっている。

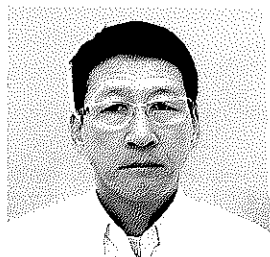


滝口美佐緒

(株)山本製作所
製造部組立グループ
(勤続年数 34.9年)

【功績の概要】

昭和57年入社以来、製造部門へ配属され、主力商品の穀物乾燥機の組立作業に携わり、現在も組立ラインの先頭(1工程目)で組立業務を行っている。35年間、組立業務一筋で、「いつも笑顔」で組立のスペシャリストとして第一線で仕事をこなしながら、後進育成にも努め、社員の模範となっている。



藤本 晃

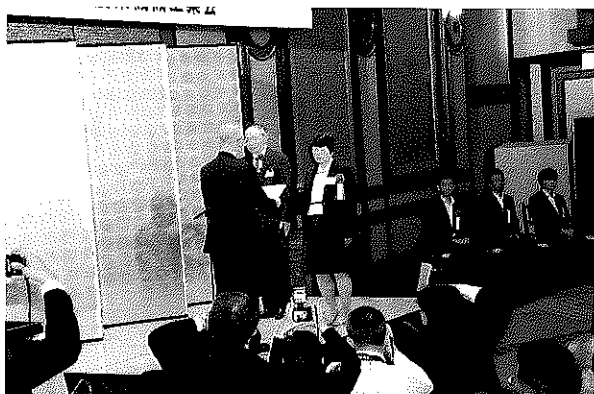
ヤンマー農機製造(株)
製造部伊吹工場
工場次長
(勤続年数 37.1年)

【功績の概要】

入社以来、トランスミッションの組立業務に精通し、平成20年3月よりトランスミッションを機械加工する部署の課長に就任、加工から組立までの品質向上に尽力した。平成25年4月に海外法人YANMAR S.P. CO.,LTDに赴任し、トランスミッションの海外生産を本格的に実施するにあたり、品質の向上に寄与した。



受賞者のみなさんをお祝いする木下会長



(株)山本製作所 滝口美佐緒さんとご主人

[研究・開発部門]



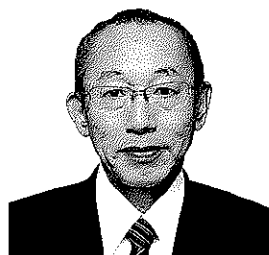
昆 明 彦

㈱IHIスター

品質保証部部长
(勤続年数 36.1年)

【功績の概要】

長年開発部門において開発事業に携わり、堆肥散布機の新商品開発に尽力した。平成22年より、それまでの経験を生かして品質保証業務にも従事し、品質管理の向上に大きく寄与してきた。また、本来の業務に加え、海外案件特別プロジェクトの取りまとめを行い成果を上げた。冷静沈着で着実に業務を遂行し、社内外からの信頼も厚い。



大 石 廣 昭

アグリテクノ矢崎㈱

取締役岡山技術部
開発・技術担当
マネージャー
(勤続年数 20.5年)

【功績の概要】

昭和8年入社後、研究・開発部門の主力メンバーとして播種機をはじめとする数々の製品開発に携わる。その後、営業部に所属し、メーカー窓口としてOEM製品の拡販で成果を上げた。現在は、岡山技術部にて精米機の開発を担当。顧客目線の開発スタイルに定評があり、社業の発展に大きく貢献している。



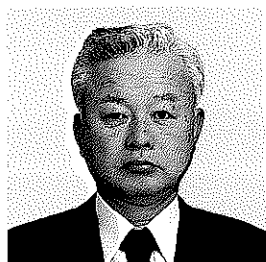
八 塚 慎 二

有光工業㈱

技術部部长
兼開発室室長
(勤続年数 25.1年)

【功績の概要】

昭和4年入社後、開発本部技術開発課に配属され、農業用防除機の開発設計に携わってきた。平成16年開発室研究開発課次長、平成28年技術部部长兼開発室室長となる。仕事に対する熱意は同僚の模範となり、部下の指導育成にも努力し、社業発展に貢献した功績は大である。



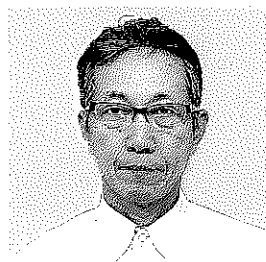
藤 井 孝 憲

三陽機器㈱

技術部開発チーム主任
(勤続年数 33.1年)

【功績の概要】

昭和59年入社以来、32年間開発部門にてフロントローダ、草刈機、投光機の開発に従事し、持ち前の発想力を発揮し、多くの製品を開発し社業に大きく貢献した。その開発への熱意は、若い開発者の模範となっている。



平 野 進

静岡製機㈱

品質保証部
品質保証課主幹
(勤続年数 37.1年)

【功績の概要】

入社以来、製造、修理解析、技術、品質保証と品質を重視する業務に携わってきた。特に、技術においては特許に関する知識を活かし、各方面との確認調整を経て、申請から特許管理に尽力するなど、技術部門からの厚い信頼を得ている。



太田 能司

(株)本田技術研究所
パワープロダクツR&D
センター第2開発室
LGA設計ブロック研究員
(勤続年数 35.5年)

【功績の概要】

約30年にわたって耕うん機等の開発に携わり、簡単に安定した耕うん作業を可能にする当社独自の同軸正逆転機構をフロントロータリーに適用させ、女性を初めとした新たなユーザー層へ訴求する等、農業機械の発展に大きく貢献した。



三陽機器(株) 藤井孝憲さん

【管理・営業部門】

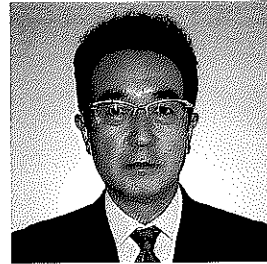


大坪 正哲

(株)IHスター
物流部部长
(勤続年数 36.1年)

【功績の概要】

長く営業所において営業活動に尽力。その後、営業企画部門に異動し、営業所での経験を活かして、営業所支援、広報活動などにおいて力を発揮し、会社業績に大きく貢献した。現在も物流部長として、全社の製品、部品の物流を統括している。着実な業務遂行により周囲から信頼されている。

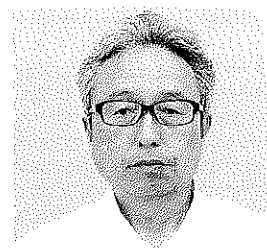


五十嵐 弘義

(株)大竹製作所
山形営業所
山形統括部長付
(勤続年数 41.7年)

【功績の概要】

山形営業所にて、永年営業の第一線で活躍し顧客の厚い信用を受け、売り上げ増加に寄与した。また、山形営業所所長を平成7年から20年間務め、その間、営業所員の指導育成に尽力した。

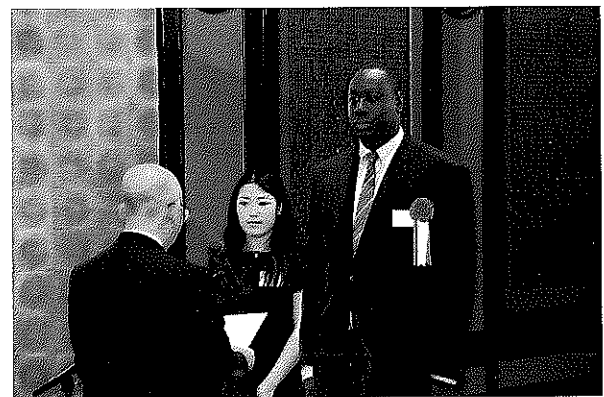


森田 清

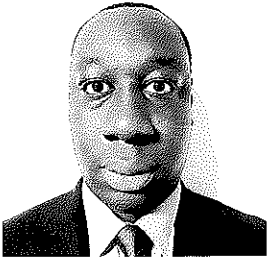
金子農機(株)
社長室室長
(勤続年数 39.1年)

【功績の概要】

昭和53年入社、技術部に所属し、乾燥機、環境機器の開発研究に尽力した。平成23年に社長室に異動、社長室長として社長の補佐役並びに技術部で培った知識をもとに製品の品質保証に寄与した。また、性格も温厚で明るく誠実な仕事ぶりは、社内外からの信頼も厚く、他の社員の模範となっている。



キャニコム インジャイポールブノさん



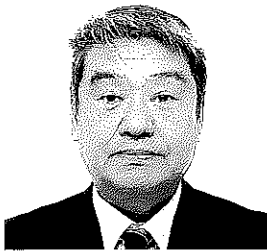
ンジャイポールブノ

キャニコム

海外営業本部
欧州グループ一般
(勤続年数 6.1年)

【功績の概要】

平成23年入社、初のアフリカ出身従業員として、アフリカ市場開拓の先頭に立ち、南アフリカで初の販売店獲得、製品投入や販促活動を展開し、アフリカ市場開拓第一人者として活躍。平成27年からヨーロッパ市場の主担当及びオセアニア地域のサポートを行い、ヨーロッパ市場の拡販などに貢献。技術営業としてアフターサービスにも注力し、顧客満足度を上げる努力を重ね、品質と性能への評価と信頼性を高めた。



山本雅之

小橋工業(株)

営業部岡山営業所所長
兼耕うん瓜販売課課長
(勤続年数 33.3年)

【功績の概要】

入社後、開発部、新規事業部を経て、平成5年より営業部へ、収穫機販売課で自走式野菜収穫機の拡販に努め、平成15年より取引先担当。平成23年から営業所長として九州営業所、北海道営業所を経て現在に至り、主力製品の拡販に貢献している。



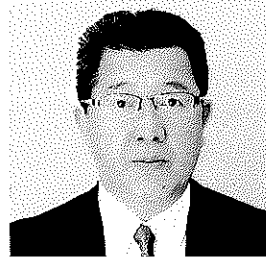
藤原昭博

株ササキコーポレーション

農機営業部副部長兼
北東北営業所所長
(勤続年数 33.1年)

【功績の概要】

昭和59年入社、製造部に配属後、営業部へ異動。関東営業所、北東北営業所で営業主任を、平成14年には販売課長、平成23年には仙台営業所長、平成27年に北東北営業所長を経て、現在は農機営業部副部長を兼任し、農機販売及び販売促進に多大な貢献をしている。



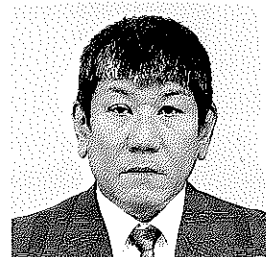
村松俊侍

静岡製機(株)

特機推進部部長
(勤続年数 35.1年)

【功績の概要】

入社以来、営業部門に所属し、この間、米麦乾燥機、玄米貯蔵庫、生ごみ処理機の販売、サービスに尽力した。現在は、本社特機部門の責任者として、共同乾燥施設、測定機器、色彩選別機の拡販に実績を残すとともに、部下の指導育成にも手腕を発揮している。



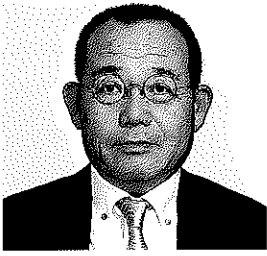
武内雅尚

株太陽

物流部物流課長
(勤続年数 39.9年)

【功績の概要】

入社以来、32年にわたり作業機等製品の管理業務を担当し、業績向上に大きく貢献した。その後、物流部に在籍し、豊かな経験を活かして顧客満足の向上に取り組み、新たな物流体制を構築し社業に貢献している。



山下 浩二

(株) 太陽
中四国営業所長
(勤続年数 30.1年)

【功績の概要】

入社以来、29年にわたり営業活動を積極的に展開し、農業環境が厳しい中で業績向上に大きく貢献した。また、現在は営業企画部門の経験を活かした提案型営業で顧客満足の向上に取り組み、さらに新入社員の教育も担い、社業発展へ寄与している。

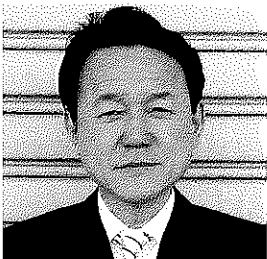


山本 美智

(株) 太陽
総務部経理課係長
(勤続年数 37.1年)

【功績の概要】

昭和55年入社以来、総務部に所属。平成9年より経理業務を担当し、どんな業務にも前向きに取り組む中、部下の指導も行い、勤務状況も良好である。性格も温厚で明るく、社内外からの信頼も厚く、他の社員の模範となっている。

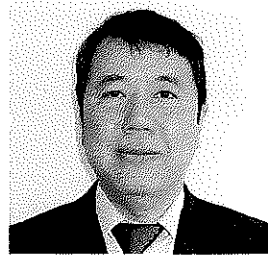


阪本 朋彦

(株)タカキタ
営業本部本州営業部
東北営業所所長(課長)
(勤続年数 34.1年)

【功績の概要】

入社以来、営業の第一線を歩み、平成24年南九州営業所所長、平成27年東北営業所所長に就任し、現在に至る。たえず営業の第一線にあって社業の発展、部下の指導育成に貢献している。



豊田 正広

(株)タカキタ
品質保証室
室長(課長)
(勤続年数 33.0年)

【功績の概要】

入社後、軸受部、開発本部、品質保証室に勤務し、平成26年品質保証室室長に就任し、現在に至る。お客様の視点に立ち品質管理、品質保証を徹底し、会社方針に沿った強い品質体制作りに大いに貢献した。



橋本 靖夫

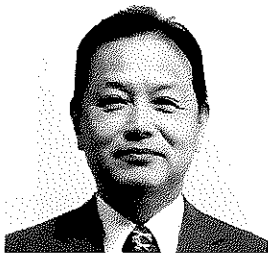
ハスクバーナ・ゼノア(株)
経営管理本部
人事・総務部部长
(勤続年数 37.1年)

【功績の概要】

昭和55年入社、人事課に所属し、同時に採用・教育を担当し、日科技連のQCサークル関東支部の幹事業務を努める。その後、経理、人事、営業を担当し、平成8年以後、人材開発、人事労務を課長として歴任。平成19年には会社分割によりハスクバーナグループ参入後は、人事総務部長としてグローバル企業への転換に向け、人事面からの変革を促し、現在に至る。



ハスクバーナ・ゼノア(株) 橋本靖夫さん



米山 正行

本田技研工業(株)

日本本部パワープロダクツ
営業部サービス課主任
(勤続年数 34.3年)

【功績の概要】

本田技術研究所に入社後、31年間、主に耕うん機、草刈機などの農業機械関連商品の開発に携わってきた。特に、車軸作業機の操作性、作業性向上や、自走式草刈機の安全性向上に努めてきた。営業部サービス課に配属後は、フィールドサービスとして、販売店を通して農機の修理アドバイスを行うと共に、後進育成にも取り組み、ユーザーから作業機械まで、幅広い分野で業界の発展に貢献している。



小松 裕史

松山 (株)

総務部
情報システム課課長
(勤続年数 32.1年)

【功績の概要】

入社以来、主として生産管理及び電算業務に従事。この間、営業管理・生産管理システムの改善に取り組む。特に近年は、情報システムのオープン化、ネットワークの高速化及びセキュリティの向上に積極的に取り組み、大きな改善を図るなど情報システム構築に多大な貢献をした。また、自らも専門知識の習得に努め、部下の指導と育成に尽力している。



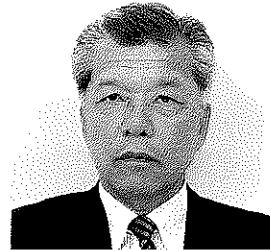
和田 誠

松山 (株)

営業部
商品課課長
(勤続年数 33.1年)

【功績の概要】

入社以来、営業部に所属。この間、市場開拓と営業業務を含めた基盤の確立に努めた。商品課では、課の責任者として営業現場と生産現場をつなぐ役割を果たし、業績の向上に貢献。また、仕事に対する姿勢は積極的で、社内及び取引先からも厚い信頼を得ている。



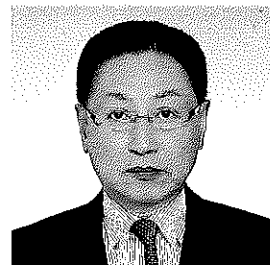
佐藤 雄三

(株)丸山製作所

国内営業本部
東北支店長
(勤続年数 36.1年)

【功績の概要】

入社以来、一貫して営業部門に所属し、主に、関東甲信越・東海地区を担当。同地区における販売の促進、営業網の整備、販売計画の策定に従事し、これにより業績向上に大きく貢献した。



高橋 一彦

(株)やまびこ

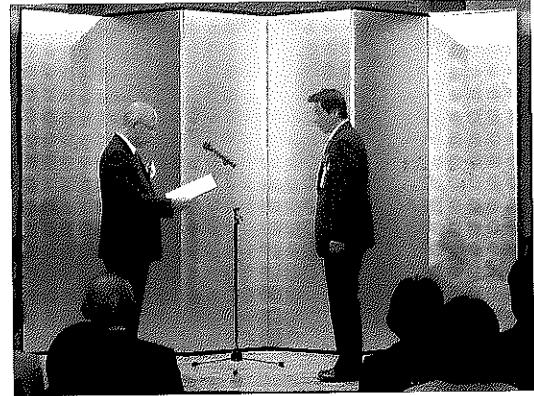
営業本部
業務部総合課
(勤続年数 43.6年)

【功績の概要】

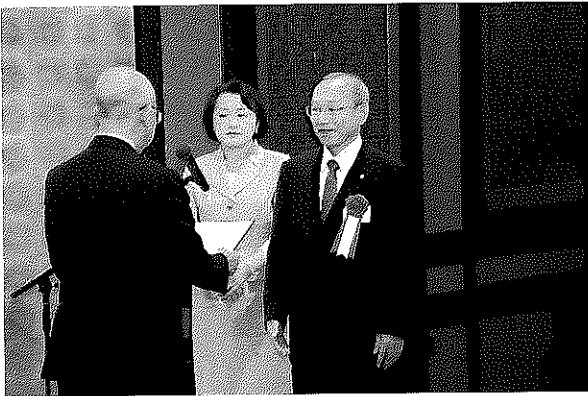
昭和48年入社以来、品質管理・開発業務、営業マンへの技術指導を担当した後に、平成19年からは研修センターの講師として後進の育成に貢献。平成21年からは社内外からの製品やサービス等に関する広範な問い合わせに対応する「営業110番」を担当。経験に裏打ちされた懇切丁寧な対応は、顧客へのサービス向上に大きく寄与している。



(株)太陽 山本美智さんとご主人



(株)デリカ 井口悦男さん



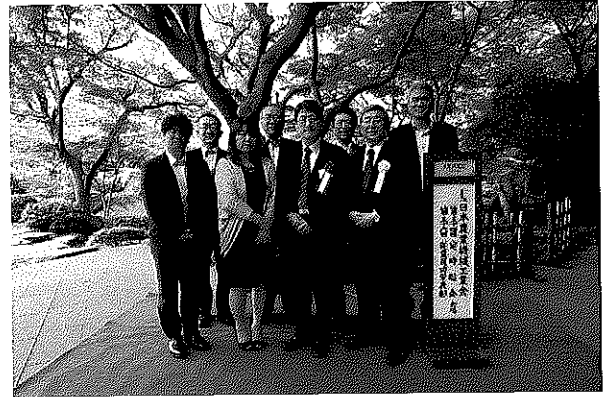
アグリテクノ矢崎(株) 大石廣昭さん



代表謝辞 金子農機(株) 森田 清さん



(株)大竹製作所大竹社長と五十嵐弘義さん



ヤンマー(株)鈴木副社長と藤本 晃さん

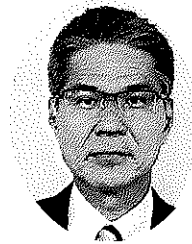


有光工業(株)有光社長と
八塚慎二さん



静岡製機(株)鈴木社長と平野 進さん、村松俊侍さん

カンボジア出張報告



田村 敏彦
(日農工・専務理事)

日本国内の農業機械市場は縮小傾向にあり、当工業会の会員企業の約4割が海外展開(生産工場、販売会社、事務所、技術提携など)を行っているが、その多くが中国、タイ、米国などです。今後の発展が期待されるカンボジアについては将来の進出先の一つと考えられるが、現地の情報が乏しいことから、すでに進出済みの日系企業を訪問して現地のビジネス環境について情報収集を行いましたので、その概要について報告します。

なお、今回の視察は、経済産業省、日本産業機械工業会、日本フルードパワー工業会、日本縫製機械工業会とともに共同で行ったものです。

1. 訪問日程

2017年2月9日～10日

2. 訪問先

在カンボジア日本大使館、JETROプノンペン事務所、デンソー・カンボジア、ミネベアミツミ・カンボジア、豊田通商・ポイペト事務所



JETROとの面談



デンソーの工場視察



ミネベアミツミの工場視察

3. カンボジアの経済、貿易、投資環境、進出日系企業について

(1) JETRO プノンペン事務所

- 2010年から7年間のGDP成長率は平均7%と高成長を維持している
- 多額の援助、外資法の施行、米国の最恵国待遇付与による外資進出により経済が活性化
- 一人当たりのGDPも年々増加し、プノンペン市では5,000ドルクラスも台頭してきている
- 中間所得層の増加に伴い個人消費が活性化、一

- 方農村部にはその恩恵が届いていない
- バンコク・プノンペン・ホーチミンを結ぶ南部経済回廊の整備により物流ルートが効率化
- AFTAによりASEAN域内の関税ゼロ、HASEAN経済連携協定は2009年に発効済み
- “ASEAN+1”は日本以外にも中国、韓国、インド、豪州、NZともFTAが発行済み
- 不動産の取得制限を除き、外資に対して制限はない
- カンボジア政府が奨励する分野は、労働集約型産業、輸出加工型産業、農業など
- 39カ所の経済特区が開発済みであり、人居企業への優遇措置あり
- 割高な電力料金、熟練労働力不足、行政の不透明、地方道路未舗装などの課題あり
- 全人口の半分は25歳未満で、低廉で豊富な若年労働力が最大の魅力
- 進出日系企業とカンボジア政府との合同会議を通じて問題を解決する枠組みがある

(2) デンソー・カンボジア工場

- アジア地域（中東、インド、アセアン、豪州）に30社、従業員36,900人、生産拠点23あり
- 2016年にプノンペンSEZに工場を設立、従業員は160人、タイ工場の補完という位置付け
- 二輪車用発電機、オイルクーラー、ウォッシャーホース、レベルスイッチを生産している
- タイは競争力が低下（労働費上昇、労働力不足、生産面積不足、土地価格上昇、政府インセンティブ減少）しており、労働集約型の生産活動は限界にきている
- “タイ+1”の候補としてカンボジア・ミャンマー・ラオスを比較し、安定政治、インフラ整備、行政手続きが圧倒的に早い、物流的に好立地という点がカンボジアに決めた理由
- デンソー玉突き戦略（日本→タイ・マレーシア・インドネシア→フィリピン・ベトナム→カンボジア・ミャンマー・ラオスへとレベルに応じて生産を移管していく）
- まず日本人がタイ人を教え、次にタイ人がカンボジア人を教えるのがデンソーの人材育成
- カンボジア人は真面目で勤勉で手先が器用なため、細かい仕事を長時間できるのが特徴
- 日系企業は従業員を家族的に手厚く処遇するので評判が良い（中国・韓国企業は人を人として

扱わないので離職率が高い)

- ポルポト時代の負の遺産のため、高等教育がまだ遅れており、大卒人材が不足している
- デンソーは一つの国にしがみつく発想はない、アジア地域全体のバランスを見て投資する

(3) ミネベアミツミ・カンボジア

- 2017年1月にミツミと経営統合したばかり、16カ国59カ所に拠点を有する
- 経営統合の結果、社内競争が一層激しくなった、工場同士も競争させられて大変である
- 車が高級化するとモーターもベアリングも高品質化し使われる量も増える
- 2010年当時はタイと中国が主力だったが、為替リスク、賃金上昇、労働力不足、スペース不足からカンボジアに進出した
- タイ・中国は付加価値の高いものを生産し、それ以外は他国へ移している
- タイの補完をどこにするか検討したが、ベトナムは賃金上昇、ミャンマーは軍事政権、ラオスは人口少なすぎる、カンボジアは賃金が安く親日的で真面目なことから、カンボジアに決めた
- タイやマレーシアから部品を持って来てモーターやマイクロアクチュエーターやLEDバックライトなどを組み立て、それをタイやマレーシアへ送り返す、ベトナム経由で域外へ輸出
- 農村部のカンボジア人は工場で働いた経験がゼロなどで、初歩の初歩から教えている
- これまでは労働集約的な組み立て作業のみだが、最近は内製部品を作るようになった
- 20万㎡の土地があり第三工場を稼働予定、従業員は現在の5,000人から20,000人へ増加
- 全員が農村からの出稼ぎなので、自社で従業員の寮を完備している
- 電子部品分野のパイオニアとしてフンセン首相から厚遇されている

(4) 豊田通商・ポイペト事務所

- トヨタ系の商社なので、車関係を中心に海外進出する日系企業のお手伝いが主な仕事
- カンボジアではポイペト（タイ国境に近い）に自社100%出資のSEZを作った
- 他のディベロッパーが不動産商売なのに比べ、進出後のアドミサービスが特徴で、会社設立手続きから人事・総務・経理業務まで生産活動以

外の業務を代行する

- 製造業（中堅中小企業）の海外進出を支援している
- ポイペトSEZはバンコクからのアクセスが良いので（車で4時間）、「タイ+1」として最適
- レンタル工場も設置しており、自前で建屋を作らなくてもよい（中小企業向け）
- 政府の許認可手続き代行、共通インフラは準備、在庫物流（混載輸送）も提供している
- 経理税務サポート、総務サポート（食堂、従業員送迎、医務室）も提供する
- インド・グジャラート州でもプラグアンドプレイ型貸工場を展開している
- ポイペトに近い西部地域のバットンバン州はカンボジアでも大農業地帯であり、専門請負業者が農機を使っている、トラクターは中古の60～80馬力、灌漑率はまだ20%程度、米以外にキャッサバを栽培している農家が多い、農家の平均耕地面積は2～3ha
- 豊田通商ファイナンスとして販売金融を行っており、農機や建機も対象にしている

4. まとめ

カンボジアの人口は約1,600万人であり、タイ、ベトナム、ミャンマーと比べると1/6～1/3と少ないので、消費市場としての魅力は低いのが現状です。一方、人口の半分は25歳以下と若年層が厚いことから、労働力は豊富にあり、真面目で手先が器用、親日的なこともあって、労働集約型産業には適しています。タイでの労働賃金上昇などの影響を受けて、日系企業の多くが“タイ+1”を余儀なくされており、そのプラスワンの有力候補

としてカンボジアが脚光を浴びています。

今回視察した日系企業2社は、カンボジアをタイの補完工場と位置付け、日本式の徹底した品質管理を継承しながら、カンボジア人の長所を上手く生かしているのが印象的でした。

また、海外展開を目指す中小企業にとって最大のネックである現地での各種行政手続きなどの代行やレンタル工場などの施設貸しも行っている日系ディベロッパーの存在も新しい発見でした。

現状ではカンボジアの富はプノンペンに集中していますが、今後、経済発展の恩恵が農村部まで行き渡り、農家の可処分所得が増え、農業の機械化が進むことを切に期待したいと思います。

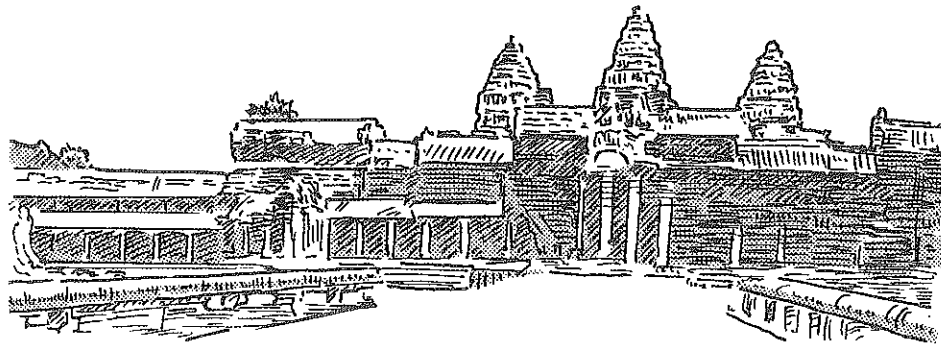


Photo Gallery 35



東京都 佐々木良太さん

タイトル: 水掛け祭り

富岡八幡宮の祭りです。水掛け祭りとも言われ、ワッショイ、ワッショイの伝統的な掛け声とともに、沿道の観衆から清めの水が浴びせられます。

きょうは子どもたちも町のヒーローになった気分でしょうか。喜ぶ子供の姿いいですね。

愛知県 河津洋平さん

タイトル: なんだよおー

朝、「じゃあ会社行ってくるね」と挨拶したら、「どうぞどうぞ勝手にどうぞ〜ムニャムニャ」と、みいちゃんに言われました。俺も気持ちよく寝ててーよ！！



神奈川県 須藤紀夫さん

タイトル: 大横川の桜

春爛漫。密集した枝に咲く、花々の豪華さが伝わるというのですが。手こぎ船での花見もうらやましいです。大横川の桜は水分の吸収と水面の光に向かって枝が伸びて行くので、東京でも有数の立派な桜だと思えます。



熊本県 木谷えりかさん

タイトル: 八千代座

熊本県山鹿は何もないところです。
でも、八千代座があります。
たまに有名な歌舞伎も演じられます。
古い建物なのが、とても良いです。
もう一つ自慢がありました。
湯量の豊富な温泉(銭湯)に100円で
入ることができます。(^^)

兵庫県 内田裕貴さん

タイトル: 人面魚

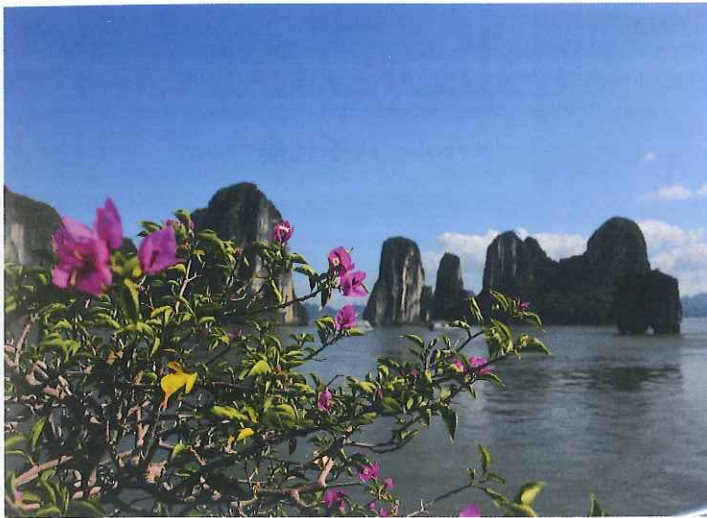
懐かしい、人面魚です。20年前位に話題になりましたが一番右の黒い鯉の、目から口にかけてが不思議ちゃんになってます。



群馬県 斎藤眞美子さん

タイトル: いすみ鉄道

いすみ鉄道は赤字路線でしたが周辺住民が“菜の花や桜”を植え、観光客が増えてきました。菜の花は長期間咲くよう調整して植えているそうです。今日も沢山の観光乗客とカメラマンが沿線に来ています。
菜の花と桜の色合いに、黄色の車両が可愛く溶け込み、素敵です。



青森県 山崎雄三さん

タイトル: ハロー湾

ベトナムの世界遺産ハロー湾はハノイからバスで4時間の所にあります。奇妙な形の石山からなる自然の造形美は、心をリラックスさせてくれます。

青森県 山崎 咲さん(高1)

タイトル: 通勤ラッシュ

ホーチミンは活気があり、オートバイに乗って通勤する人も多く、マスクは必需品です。ドラえもんやキティちゃんのマスクが大人気です。フランス文化の名残りなのか信号が少ないので、道路を渡るのが、めちゃくちゃ大変です。(>_<)



岡山県 平井直哉さん

タイトル: 蝶を追う子ども

土手で男の子が夢中になって蝶を網で追う姿、昔懐かしい光景に思えます。自然が少なくなりましたが、虫や草花が春が来たことを教えてくれます。

投稿写真を募集しています

- ・次回秋季号の写真×切りは平成29年9月20日です。ジャンルは自由です。
- ・フィルムカメラや、デジタルカメラで撮影した写真を、必ずタイトルとコメントを添えてご応募下さい。採用された方には記念品を送らせていただきます。

応募先: 一般社団法人日本農業機械工業会 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

E-mail: sunflower@jfmma.or.jp

健診で見つかりにくい病気

医師に聞く健康診断で見つかりにくい危険な病気TOP5

順位	項目	回答数	占有率
1.	すい臓がん	974	59.3%
2.	精神疾患(うつ病など)	130	7.9%
3.	脳動脈瘤(くも膜下出血など)	121	7.4%
4.	胆管がん	67	4.1%
5.	睡眠時無呼吸症候群	62	3.8%

健康診断や人間ドックを受けても、実際に見つかりにくい病気はたくさんあるようだ。医師専用のコミュニティサイトを運営するMedPeer(メドピア)は、同サイトでアンケート調査を実施したところ、最も多くの声を集めたのは「すい臓がん」という結果になった。

■1位 すい臓がん

・進行するまで症状が無く、一般の健康診断でも早期がんは見つからない。予防としては、過度の飲酒を避ける。(30代、救急医療科、男性)

・健診の項目以外で腹部エコーやCTを追加で検査する。(50代、腎臓内科・透析、男性)

・癌家系だったり、多飲酒だったりする人は、かかりつけ医もしくはかかりつけドックを持ち、一般的な健診ではあまり見てもらえないエコー・腫瘍マーカーなども時々行う。背中～脇腹の不快感があれば特に。(50代、産業医、男性)

・背部中央の違和感が続くようなら、CA19-9を含めて検査する。予防は節酒、バランスの良い食生活。(50代、一般内科、男性)

・飲酒、肥満による糖尿病を避ける、禁煙。(60代、一般内科、男性)

■2位 精神疾患(うつ病など)

・不眠や食欲低下に伴って億劫感が出現した時には注意が必要。(50代、精神科、男性)

・ストレスチェックを定期的の実施する。睡眠時間を確保する。(30代、精神科、男性)

・予防としては、残業時間を月30時間以内にする。休みの日は仕事と全く関係のない過ごし方をする。(30代、精神科、男性)

・一般に精神疾患の場合は脳のリズムが乱れてきますので、睡眠・食欲といった脳の基本的な役割が乱れてきます。2~3週間毎日睡眠

や食欲の不調があって、内科的に問題がない場合は精神疾患を疑った方が良いと思います。(50代、精神科、男性)

・精神状態のチェックもしてもらえる健診があると良い。(70代、一般内科、男性)

■3位 動脈瘤(くも膜下出血など)

・脳ドックでしかわからないので、近親者にくも膜下出血等の既往歴があれば検査を。(30代、脳神経外科、男性)

・未破裂脳動脈瘤は基本的に無症状なので脳ドックしかありません。(30代、脳神経外科、男性)

・通常の健診では脳までの観察はしない。いつもと違う頭痛やめまいを感じたり、親族にくも膜下出血があればMRI、MRAを受けること。(50代、一般内科、女性)

・脳ドックを定期的に受ける。塩分摂取の制限、定期的な運動などで血圧の管理を行う。(40代、リハビリテーション科、男性)

・高血圧があれば、食生活の見直し。それでも高ければ降圧薬の内服。(30代、形成外科、男性)

■4位 胆管がん

・早期発見は極めて困難。エコー専門医でも困難なことが多いが健診でも腹部エコーはすべき。(50代、一般内科、男性)

・総胆管がんは黄疸が出るまで事実上診断ができないので、膵臓がん以上に見つけられないと思います。(50代、神経内科、男性)

・なかなか有効な方法はないと思うが、あえて言えばPETをうける。(40代、麻酔科、男性)

・予防策ははっきりとはわかっていない。たばこをやめる、健康的な食生活をする等。(50代、一般内科、男性)

・印刷業などの職業病の可能性が高いため、発がん性の高いインクなどを使用した経験がある人は、年に一度その専門医の検診を受けた方が良い。それ以外予防策は無いように思う。(50代、消化器外科、男性)

※5位の「睡眠時無呼吸症候群」については、以前ひまわり56号でも取り上げておりますので省略します。(DIME2016.10.21より抜粋)

ISO/TC23/SC3 会議出張報告

1. はじめに

日農工では、日本工業標準調査会 (JISC) の承諾の下に当会が国内審議団体になっているISO/TC23 (農業用トラクタ及び機械) に関し、これまでSC6、SC17及びSC19に登録していましたが、平成28年度に全てのSCへの参加登録を行いました。

特に、SC3(乗員の安全性及び快適性)に関連する事項では、農水省の「農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討事業」が進められる中、昨年8月に日農工・技術安全対策委員会の下に「ロボット農機分科会」を設置して具体的な対応を行っているところです。

そのうち、SC3の下に設置されている作業グループ(WG15)で、製造者に求められる安全性確保策の規格「ISO 18497 Agricultural machinery and tractors-Safety of highly automated agricultural machines」の検討が進められています。このISOとの整合性も必要であることから、昨年12月にPメンバーとして新たに加盟し、国際規格原案作成に参画することといたしました。

そして、本年3月にカナダ・トロントにて開催されたISO/TC23/SC3の国際会議に出席しましたので、WG15の審議内容について報告します。

TC23に設置されているSC

SC2	一般試験 (O)
SC3	乗員の安全性及び快適性 (P)
SC4	トラクタ (O)
SC6	収穫物保護設備 (P)
SC7	収穫及び保存設備 (O)
SC13	芝生及び園芸用動力機械 (O)
SC14	操作制御、操作記号・表示及び操作マニュアル(O)
SC15	森林用設備 (O)
SC17	携帯式林業機械 (P)
SC18	灌漑・排水装置とシステム (O)
SC19	農業用電子設備 (P)

注：(P)=Participating member (積極的に参加)
(O)=Observer member (オブザーバーとして参加)

2. TC23/SC3/WG15の審議内容

(1)日時 平成29年3月27日 9:00-17:00

(2)会場 カナダ・トロント

CSA (Canadian Standards Association)

(3)出席者 25名

日本らかの出席6名 (井関農機㈱・楯野豊/㈱クボタ・松崎優之/ヤンマー㈱・岩村圭将/革新工学センター・菊池豊/革新工学センター・紺屋秀之/日農工・松山徹)

(4)議事内容

① 開会

SecretaryのNorbert Alt氏 (VDMA) より、今回のホストを務めたCSA (Canadian Standards Association) に対して感謝の意が示された。

② 代表者のロールコール (参加者の自己紹介)

③ アジェンダの採択

あらかじめ提案された議題の他、日本のロボットトラクタに関するプレゼンテーションを加えた議題が採択された。

(注：本プレゼンテーションは、日本から申し入れたもの)

④ ISO/DIS 18497.2 (Second DIS) の情報

これまで議論されたISO/DIS 18497.2について情報が共有された。

⑤ ISO 18497.2の議論

SC3メンバーから提案された意見照会結果に対し、適用範囲、スコープ、オペレータが介在する制御装置の必要性など、特定の問題に焦点を当て最終国際規格原案 (FDIS) に向けた審議が行われた。

⑥ 日本の自動機械に関するプレゼンテーション

日本から高度自動機械の開発と使用のアプローチについてプレゼンテーションが行われた。

⑦ ISO 18497制定まで

今回の討議で出された意見のコンセンサスを得たのち、FDIS登録手続きが行われ、検討・審議を経て、国際規格発行承認手続きが行われる。

ただし、修正が必要となった場合はWG15に戻され再検討を行う必要がある。

なお、WG15では、ISO 18497の発行後もこの規格を継続運用するため、定期的な意見交換を行い早い段階で改正のための審議を行うことになる。

⑧ 閉会

Norbert Alt氏から、会議の参加者に対して感謝の意が述べられて閉会した。

3. 雑感

WG15では、既に2013年にISO 18497制定のための作業原案(WD)の作成を開始しており、今回の

会議は最終国際規格案(FDIS)として登録をするための最終会議でした。この時期に日本が初めて参加する形ではあったが、メンバーからは歓迎の意が示され、日本からの発言も議場で慎重に審議いただいた。

また、会議の休憩時間や恒例行事であるパーティなどで行われるロビー活動においても各国の方と有意義な交流が出来たと思う。

今後も、こういった国際会議に積極的に参加することで、国際規格に制定に対する日本の存在感も高まっていくものと思われた。

(日農工・松山)



出席者メンバー (CSA受付ロビーにて)



日本のプレゼンテーション (SC3本会議にて)



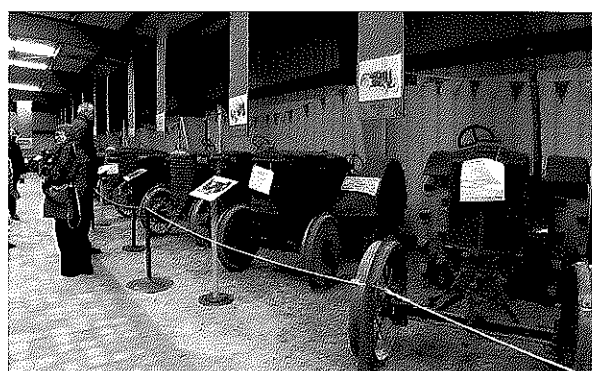
TC23/SC3/WG15の会議風景①



パーティ開始前の時間を利用したロビー活動



TC23/SC3/WG15の会議風景②



Professional Tour (Country Heritage Park)

中国(寧波市・蘇州市)出張報告

日農工・国際委員会では2017年3月1日～4日に中国・寧波市を中心とした工場視察を行いました。今回の工場視察では、株式会社ニッカリ、Deere&Company、川崎重工業株式会社の3社を訪れましたので、ご報告いたします。

1. 日程

3月1日(水)午前：羽田空港→浦東空港

午後：バス(寧波市)

3月2日(木)午前：Deere&Company 寧波工場

午後：ニッカリ寧波工場

3月3日(金)午前：バス(蘇州市)

午後：川崎重工業蘇州工場

3月4日(土)浦東空港→羽田空港

2. Deere & Company・寧波工場

社名：約翰德爾(寧波)農業機械有限公司

担当者：総経理 孫宝林 様

- 寧波工場の敷地面積は110.880 m²、従業員数351人(すべて中国人)
- 国内に他5つ工場、設計は天津市、北京市に営業部
- トラクター(26PS～75PS)を主に輸出向けに製造。輸出先はロシア・南アフリカ
- タイ・インドネシア・インド。生産力は72台/1日(8時間)、年間25,000台以上
- サトウキビ収穫機をアメリカより部品を輸入し組み立てを行っている
- 製造・塗装技術は、アメリカ同様
- 品質管理方法はトヨタ式を導入。2007年の工場改修以降の約8万時間、生産事故はなく、不良品は0.03%以下
- 部品は主にアメリカ・ドイツより輸入
- 200以上のディーラーがあり、修理依頼受付後、2日以内に対応できサービス、耐久性があり中古でも売れるのという理由で、国内製品に比べ高価格でも売れる

3. 株式会社ニッカリ・寧波工場

社名：寧波利豪機械有限公司

担当者：貿易部部长 藤原 秀興 様

貿易部 堤 厚博 様



約翰德爾(寧波)農業機械有限公司の工場内

- 平成13年に寧波利豪機械有限公司を設立(ニッカリ独資)
- 敷地面積は21,139 m²、従業員数250名
- モノラック、刈払機、ヘッジトリマー、カルチベーター、カッターを製造(主に電動機器)ステール、ペレンクの製品を取り扱っている(製造・設計)
- バッテリー性能が向上してきており、ハイエンドモデルの需要が出てきた(中国製品に比べ高価格)
- モノラックをミカン、お茶、タケノコ園などで20台ほど販売していたところ、中国政府の目に留まり平成28年11月に補助金対象
- 200kgタイプを製造しているが、農地面積が広いことから、積載量大タイプを製造予定(300kgタイプ以上)
- 収穫、草刈を行っている農家が多く、機械の需要はあるが、適用エンジンの手配に苦心している。
- 山間部を中心に販路拡大予定(浙江省)



寧波利豪機械有限公司の工場視察

4. 川崎重工業株式会社・苏州工場

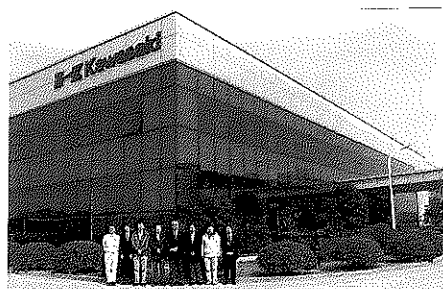
社名：川崎精密機械(苏州)有限公司

担当者：理事 管理部部長 佐伯 和彦 様

精密機械カンパニー営業部

営業戦略部課長 水 悟史 様

- ・敷地面積 92,000 m²、第1工場(15,500 m²)
第2工場(13,600 m²)油圧製品、第3工場
(11,000 m²)ロボット製造
- ・従業員数 164名(日本人：油圧部門4名ロボット
部門2名)
- ・事業は油圧機器とロボットの製造、販売・アフ
ターサービス
- ・浙江省に油圧機器製造の工場、上海・天津に
営業、韓国に油圧機器製造工場
- ・中国国産の油圧機器製造の依頼を受けて2006
年より製造開始。ロボットは2015年7月
より製造開始
- ・油圧機器は、中国国内向け、ロボットは国内輸
出向けに製造
- ・蘇州エリアは日系企業が多く進出している
(日系企業約2,000、駐在人員約7,000人)
- ・蘇州に工場を作った理由の一つで、日系企業
から部品を購入でき、日本と同品質の油圧
機器を提供できる
- ・バルブ製造しておらず、日本製を提供
- ・2011年はポンプ・モータの製造台数が約
40,000台となっていたが、リーマンショック
以降急激して2015年には8,000台。2016年
後半から約20,000台まで回復
- ・工場としては、半分の稼働
- ・ロボットの生産は、2016年で約1,200台
- ・2017年には新機種販売予定で4000台を見込
む
- ・自動化の波を受け、引合いが多くなってきて
いる。
- ・需要は設備投資と繋がっておりプロジェクト
に関わるかで台数は大きく変わる
- ・生産状況に合わせて、ロボット工場を追加
予定



川崎精密機械(苏州)有限公司の工場視察

5. 感想

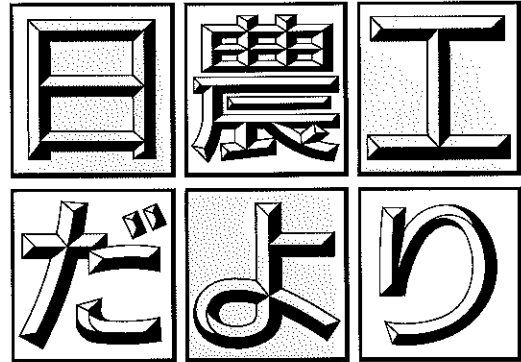
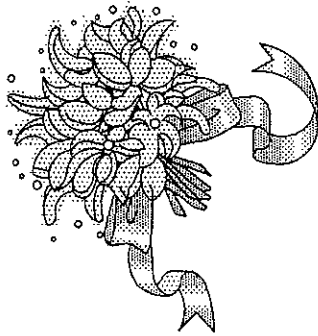
従業員の職場定着が難しく、賃金を重視して
いて、新入社員3,000元~4,000元ほどで、都市
部では年々2割増加傾向です。他社間での賃
金比較、特別賞与があると翌日から出社しな
くなる職員も出てくるので、賃金関係は慎重に
取り扱っているそうです。職場環境はあまり気
にしないようで、日本と違い印象的でした。

Deere&Companyの製品は、中国製品に比べ
高価格だが、高品質、広い中国内でも2日以
内に修理対応することで人気があることから、
品質と併せてアフターサービスの充実させる
ことも重要だと感じました。

株式会社ニッカリで初めて刈払機の製造工
程を見学しました。手作業で組み立て、複数
の従業員により入念な締め付け等のチェック
で、品質管理がされていました。敷地内にモ
ノラックの走行レールがあり、見学するこ
とができました。レールは、上辺を平衡に保
てば、直線だけでなく横・上下に曲げて設
置できるので、改めて山間地に適している
のだと思いました。

川崎精密機械の組み立てラインは、すべて
産業機械、次工程に送る部品を画像センサ
ーで確認、不備があれば音で知らせるシス
テムがあり驚きました。加えて人による監
視もあり品質管理を徹底していると感じ
ました。

最後になりますが、工場見学をお引受け
いただいた、株式会社ニッカリ様、John
Deere様、川崎重工業様、並びにご紹介
いただきましたCAMMA様、一般社団法人
フルード・パワー工業会様にお礼申し
上げます。(日農工・吉村)



第54回定時総会の開催

5月29日(月)港区白金台の八芳園にて、第54回定時総会を開催いたしました。

①平成28年度貸借対照表及び正味財産増減計算書について、②理事の交代について審議しそれぞれ承認されました。

総会について第56回従業員功労表彰式を執り行い、会員企業から推薦を受けた31名の受賞者に、木下会長より表彰状が授与されました。(1～8ページ参照)



総会で挨拶をする木下会長

◆マルマス機械(株) 平野治親会長 叙勲受章



平野治親氏

平成29年春の叙勲において、マルマス機械株式会社の平野治親会長が旭日双光章を受章されました。(推薦団体:(一社)富山県発明協会)

今回は、発明考案功労が評価されての榮譽となりました。氏は日農工の評議員、理事、精米機部会長を務められ、農機業界にも多大なご貢献をされました。ご受章を心よりお祝い申し上げます。

今後のスケジュール

- ◇ 平成29年10月30日(月) 地方大会
ホテルアトールエメラルド宮古島
幹部会 15:00～(予定)
地方大会 16:00～(予定)
懇親会 18:00～(予定)
10/31(火)有志によるゴルフ懇親会を開催
- ◇ 平成30年1月11日(木)
新年賀詞交歓会 12:00～13:30
八芳園(港区白金台1-1-1)

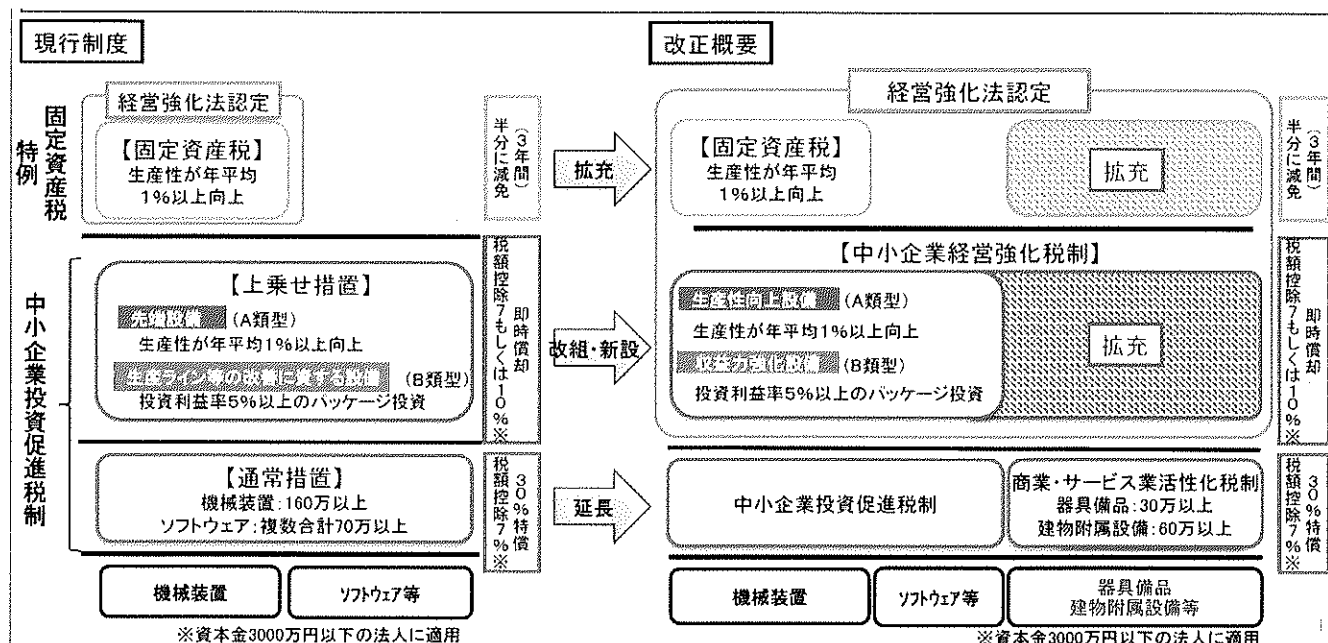
中小企業等経営強化法に関する証明書発行について

(一社) 日本農業機械工業会

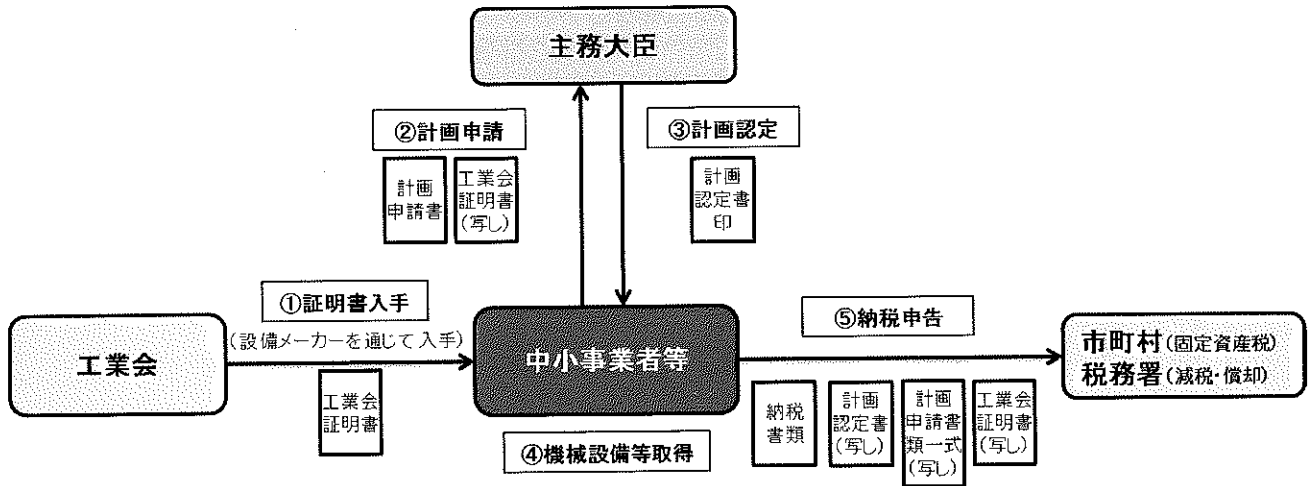
1. 中小企業等経営強化法に関する証明書

中小企業等経営強化法において、機械・装置等が必要な要件を満たしていることを証明するものです。中小企業等（農業法人、個人農家を含む）が主務大臣の計画認定を受ける際にこの証明書が必要になります。中小企業等は計画認定書等を添えて固定資産税特例申請を行うことにより、該当する機械及び装置の固定資産税が1/2に軽減されます。農業機械では、減価償却資産のうち軽自動車税が課税されている機械を除くものが対象となります。

また、平成29年3月31日で終了した生産性向上設備投資促進税制は、平成29年4月1日より中小企業等経営強化法の枠組みの中で継承されることになり、固定資産税特例の証明書と兼用できることになりました。



従って、これまでの生産性向上設備投資促進税制の手続きでは、工業会発行の証明書を確定申告時に税務署へ提出すれば所得税等の減税が受けられましたが、平成29年4月からは、固定資産税特例の手続きと同様に、「主務大臣の計画認定」という手続きが必要になりました。(次頁の図参照)



1. 中小事業者は、設備を決定し、設備メーカーを通じて工業会から証明書を入手。
2. 工業会が発行した生産性証明書（写し）を添付して、主務大臣に経営力向上計画申請書を提出
3. 主務大臣は、計画認定書（大臣印が押印されたもの）を中小事業者等に交付。
4. 中小事業者が機械設備等を取得。
5. 納税時に、納税書類とともに経営力向上計画認定書の写しと申請書類一式（添付書類を含む）の写しを市町村又は税務署に提出する。

なお、詳しくは、経済産業省中小企業庁のホームページをご覧ください。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kyoka/>

2. 申請方法

次の書類を揃えて、当会あてに郵送にて提出してください。

なお、当会窓口へ直接持参されても受け付けいたしかねます。必ず郵送でお願いします。

(1) 証明書（様式1） ※申請書を兼ねています。

(2) チェックリスト（様式2）

(3) 非会員の場合は、会社概要（パンフレット等）

様式1、2は、当会のホームページからダウンロードできます。（<http://www.jfmma.or.jp>）

事前に、本制度の要件を満たしていることを十分に確認した上で、申請してください。

（要件）

- ① 販売開始から一定期間以内であること（最新モデルでなくてもよい）
機械・装置：10年、工具：5年、器具・備品：6年、建物附属設備：14年
- ② 当該モデルが一世代前のモデルと比較して、年平均1%以上の生産性向上を達成していること。
なお、比較するのは自社の一世代前のモデルであり、他社製品と比較する必要はありません。
- ③ 取得価額が一定金額以上であること
機械・装置：160万円、測定工具及び検査工具：30万円
器具・備品：30万円、建物附属設備：60万円

3. 郵送先

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館

一般社団法人日本農業機械工業会（証明書申請）

TEL03-3433-0415/FAX03-3433-1528

4. 証明書発行手数料

正会員 : 無料

その他 : 3,000円/枚 (※消費税込みの金額です。)

※証明書を申請者へ郵送する際、請求書も同封いたします。

5. 証明書の発行

証明書が出来しだい、申請者あてに郵送します。

申請資料を当会に郵送する際、必ず切手を貼った返信用封筒を同封してください。

6. 証明書の再発行

発行済みの証明書を紛失、又は内容訂正が必要になった場合には、証明書の再発行をいたします

①再申請の方法

新たに申請書(様式1)のみを郵送してください。チェックリストやエビデンス資料は不要です。

ただし、発行済み証明書の「整理番号」を記載したメモ紙を同封してください。

②証明書の受け取り方法

新規申請の場合と同じです。返信用封筒を同封してください。

③再発行手数料

日農工の正会員以外については、1枚につき3,000円(消費税込み)とします。

徴収方法は、新規申請の場合と同じです。

7. 書類作成上の注意

(1) 必要書類(様式1、様式2)に所定事項を正確に記入してください。

当会が記入する部分(整理番号及び破線枠内)は記入しないでください。

(2) 必要に応じて、本制度の要件を満たしていることを示す根拠資料を要求する場合があります。

8. 「固定資産税半減」と「税額控除又は即時償却」との証明書の兼用について

平成29年4月から同じ手続きスキームとなり、1枚の証明書で兼用できるようになりました。

証明書原本は計画認定申請に使用しますので、市町村と税務署への提出のために写しを準備しておいてください。

9. 「生産性」について

生産性の指標は、申請者が最適と判断するものを用いてください。

なお、生産性向上設備投資促進税制の指標を参考にしてください。

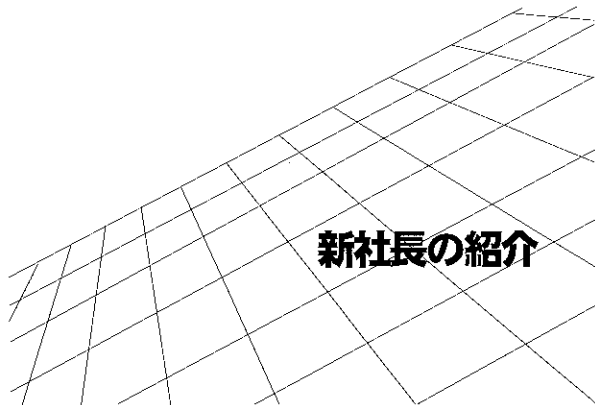
10. 「固定資産税半減」の対象となる機械・装置

減価償却資産が対象となりますが、軽自動車税が課税されている乗用型農機(トラクター、コンバイン、田植機など)は対象外となります。したがって、農業機械で本制度の対象となるのは、耕うん機、野菜移植機、乾燥機、脱穀機、籾摺機、精米機、最高速度が35km/h以上のトラクター(*)などです。

(*)道路運送車両法で小型特殊自動車に定義されるものは軽自動車税の対象となり、大型特殊自動車に定義されるものは固定資産税の対象となります。詳しくは、各市町村にお問い合わせください。

11. 対象期間

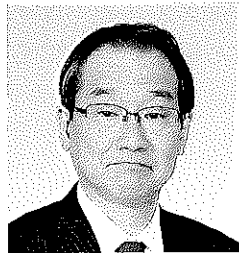
「固定資産税半減」は、平成28年7月1日から平成31年3月31日の間に取得した機械・装置が対象となります。「税額控除又は即時償却」は、平成29年4月1日から平成31年3月31日の間に取得した機械・装置、器具備品等が対象となります。以上



新社長の紹介

〈株式会社IHIスター〉

宮原 薫(みやはら・かおる)氏が代表取締役社長に就任されました。宮原社長の主な経歴は、昭和58年3月に石川島播磨重工業株式



会社技術本部技術研究所セラミックガスタービンプロジェクト部入社(現:株式会社IHI)、平成26年4月技術開発本部管理部部長、平成27年4月同社産業・ロジスティクスセクター副セクター長、平成29年4月1日株式会社IHIスター代表取締役社長にご就任。

◎新社長に抱負を語っていただきました。

「90年以上にわたって農業機械分野で多くのお客様にご愛顧頂いた弊社の歴史を誇りとし、新たな時代の農業にお役にたてるSTARであり続けること。より安全で信頼性が高い農業機械をご提供し、さらにはスマート農業などの新しいニーズにお応えすることで、STARとしてお役に立って行きたい。」

趣味は散歩(知らない街を歩きポーっとすること)
座右の銘は「逃げずに向き合う」
東京都出身、血液型はB型
家族は妻と娘3人

(本社所在地)

〒066-8555

北海道千歳市上長都1061-2

株式会社IHIスター

TEL0123-26-1122 / FAX0123-26-2097

スタートラクタ作業機(施肥・耕起・砕土・整地・管理・収穫・運搬・除雪)、自走作業機(施肥・収穫)等の製造・販売。

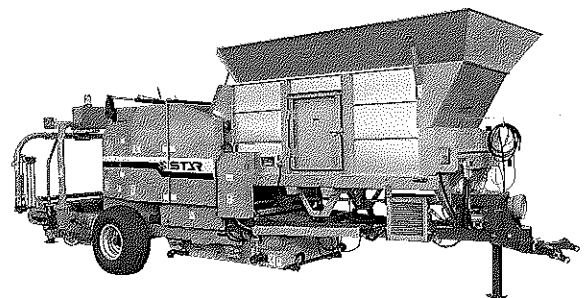
ホームページ <http://www.ihistar.com>



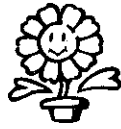
中型ブロードキャスタ



中型カッティングロールベアラ



細断型ベアララップ



編集後記



▽ 中国で反日デモがピークだった2012年頃に、中国に生産拠点を持つ日本企業の間では「チャイナ・プラスワン」という考えが支配していました。反日デモや賃金の高騰、労働者のストライキ、環境悪化による環境コストの負担上昇、民衆による暴動などの中国リスクが急速に高まり、生産拠点を中国以外の国に分散させることによってリスクを軽減させようというものでした。

「チャイナ・プラスワン」は生産拠点の中心は中国のままなので、リスク回避にはなっていませんし、その後あらたに不動産バブル崩壊のリスクも加わり、中国リスクは増える一方と見えてしまうのは私だけでしょうか。

ただし、人口1.4億人の巨大市場は魅力的です。乗用車の世界需要の32%が中国で売れており、スマホも約3割が中国で売れています。ちなみに、農業用トラクタの場合、全世界で年間約200万台出荷されていて、約25%が中国で販売されている、とのことでした。

▽ 最近カンボジアを訪問する機会がありました。(本誌に出張報告を掲載。)

そこで「タイ・プラスワン」という言葉を頻繁に耳にしました。

タイでは洪水の影響もありましたが、賃金の高騰、政府インセンティブの減少、土地スペース不足などのリスクが顕著になっており、タイの周辺国に補完工場を設立する動きが目立ってきました。ミャンマー、カンボジア、ラオスが候補になりますが、ラオスは人口が少ない上にタイとの間の物流インフラが脆弱なため、ミャンマーかカンボジアが「プラスワン」になっています。



働き者の電柱



夕暮れの王宮



トンレサップ川

▽ さて、元々は日本にあった生産拠点が、中国からタイへ、さらにその先のアセアン諸国へと移ってきていますが、何れさらに次の移転先を探すことになるのでしょうか。回り回って日本に戻ってくるなんてこともあり得るかもしれません。

I o T化が急速に進んで、日本が超高生産性国家になっていければの話ですがね。